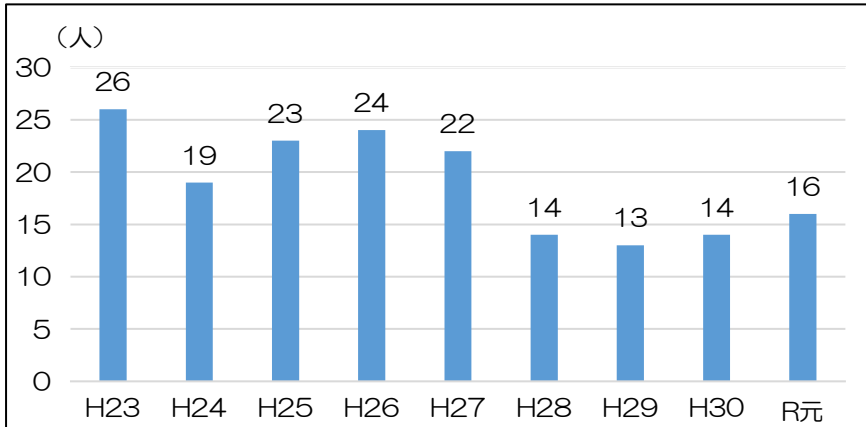
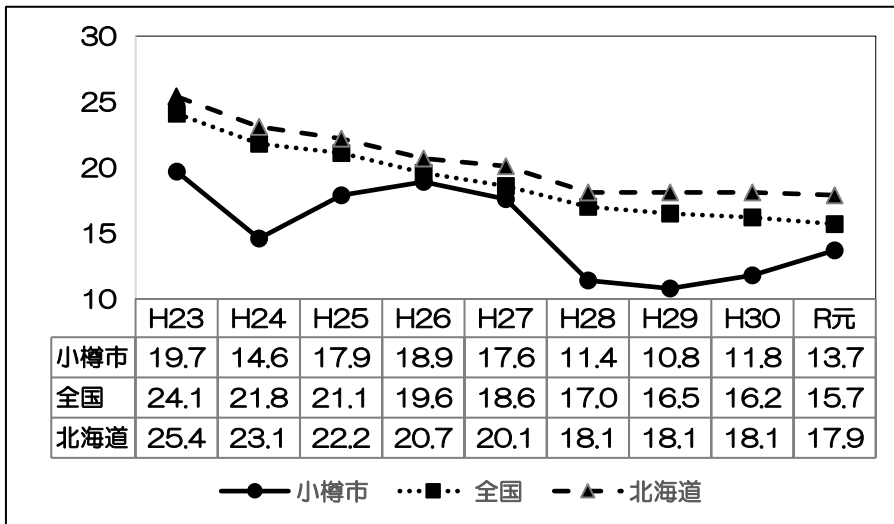


1 自殺者数の推移 (厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」)



- 全国の自殺者数は平成22年以降減少し、令和元年に2万人を下回って19,974人となっている。
- 小樽市においては、平成28年に大きく減少して、その後は横ばいの状況。

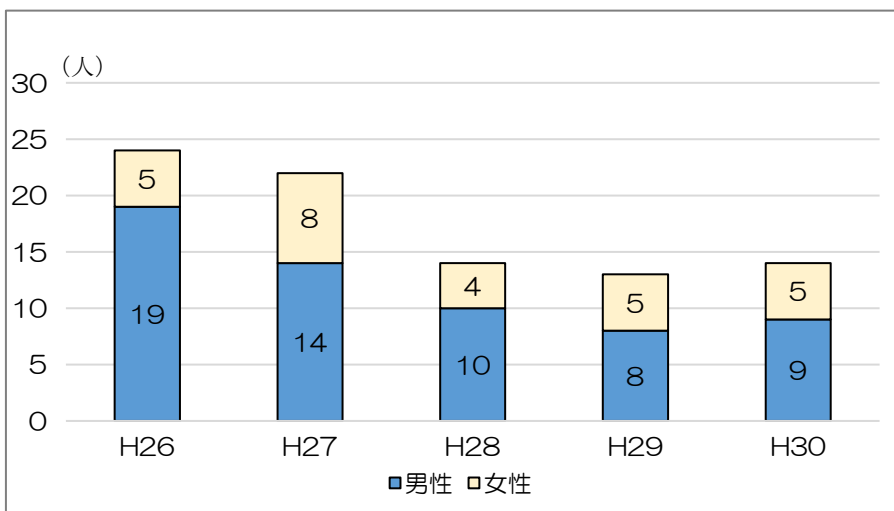
2 自殺死亡率 (厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」)



- 小樽市の自殺死亡率は全国、全道に比べて低くなっている。
- 計画の数値目標：令和元～4年の平均自殺死亡率：15.3以下

ここからは、主に自殺総合対策推進センターが作成した「地域自殺実態プロファイル(2019)」に基づいて平成26～30年の状況(自殺者数は87人)について分析しています。

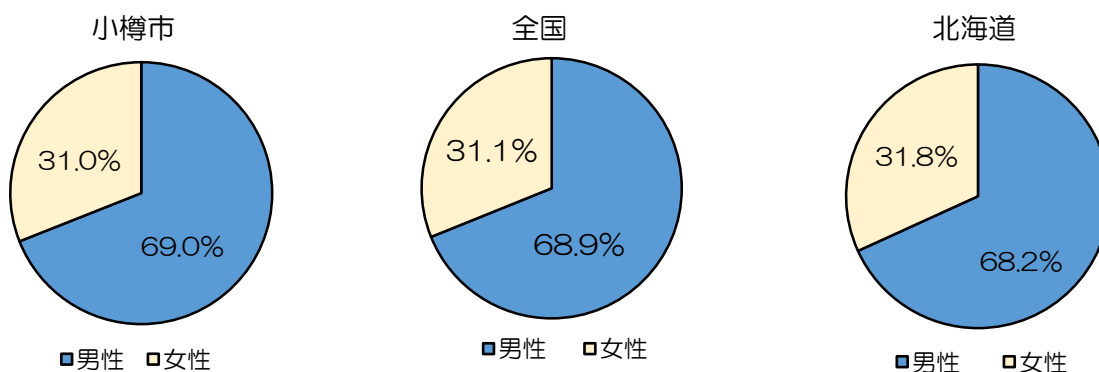
3 男女別の推移 (自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル(2019)」)



- 平成26～30年の自殺者の男女別状況を見ると、男性が約7割、女性が約3割となっており、これまでと同様の傾向。

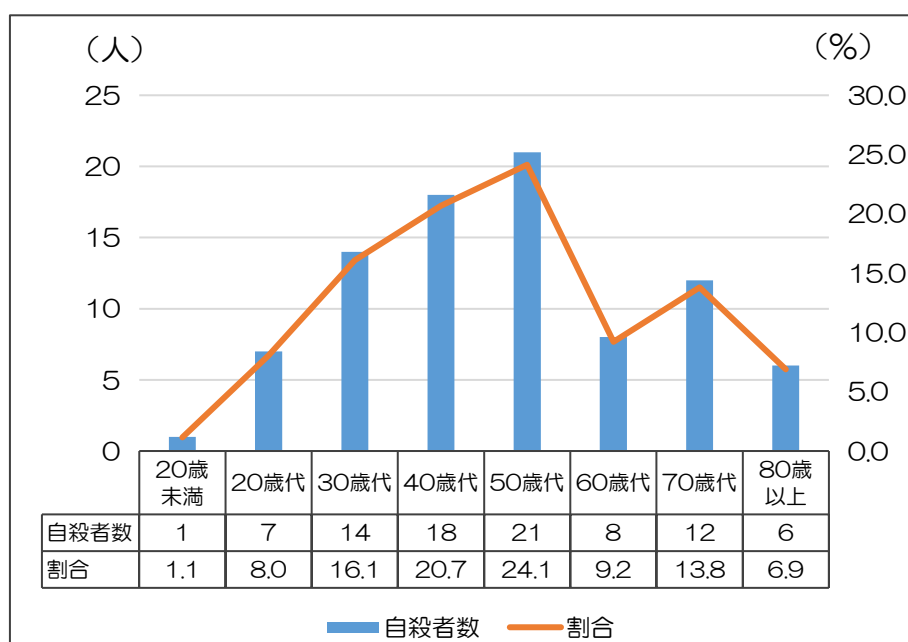
4 男女の割合 (平成26~30年 合計)

(自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール(2019)」)



5 年齢別自殺者数・割合 (平成26~30年 合計)

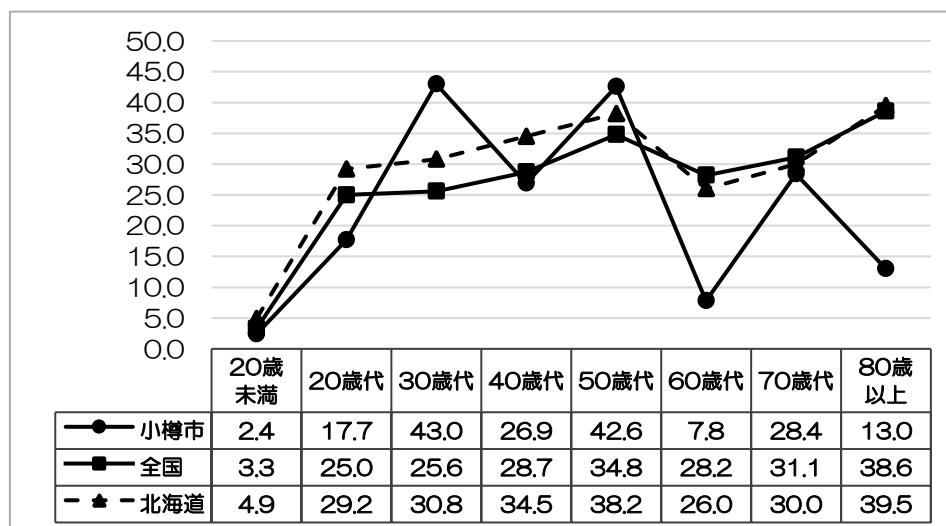
(自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール(2019)」)



□年代別の状況を見ると
20歳未満の自殺者が1人で1.1%、20歳代から50歳代までが60人で68.9%、60歳代以上が26人で29.9%。
□平成24~28年の合計と同様の傾向。

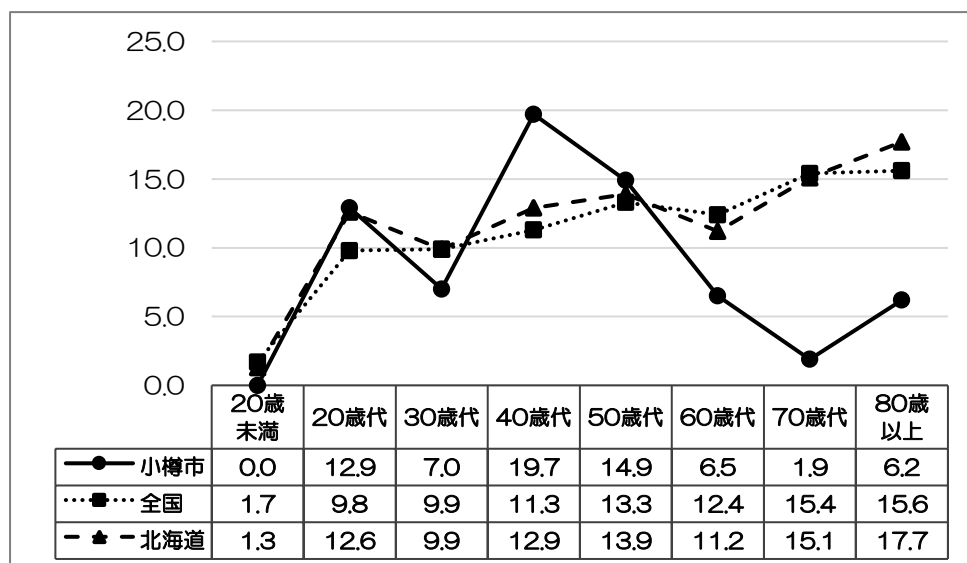
6 性・年齢別の自殺率(男性) (平成26~30年 合計)

(自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール(2019)」)



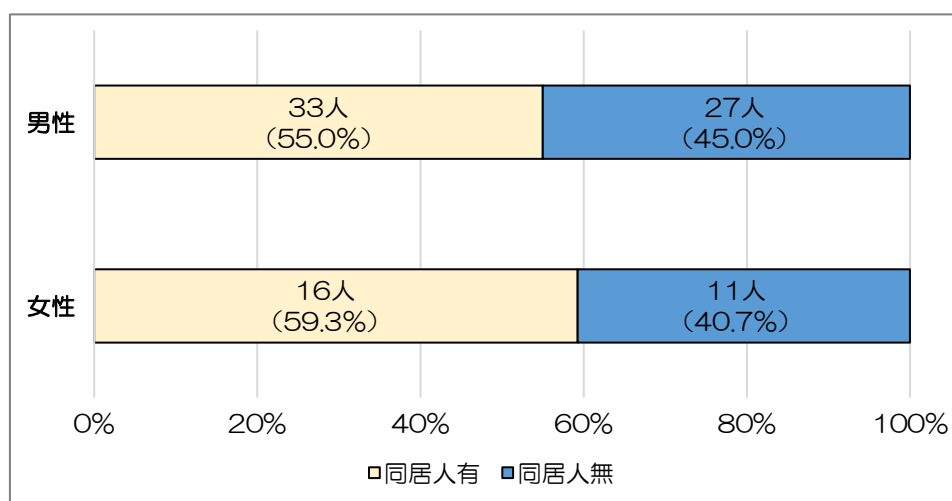
□男性の年代別死亡率は、30歳代と50歳代の働き盛りの世代が全国に比べて高い。
□60歳代以上においては、全国、北海道より低い。

7 性・年齢別の自殺率（女性）（平成26～30年 合計）
 （自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2019）」）



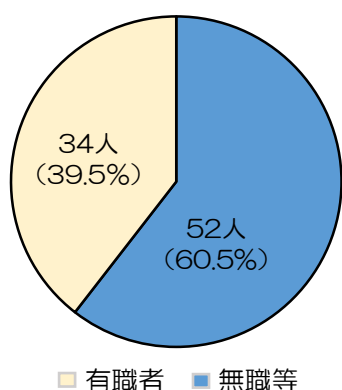
□女性では、20歳代、40歳代、50歳代において全国より高い。
 □60歳代以上においては、全国、北海道より低い。

8 自殺の同居人の状況（平成26～30年 合計）
 （自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2019）」）



□男性、女性ともに同居している割合が高く、約6割となっている。

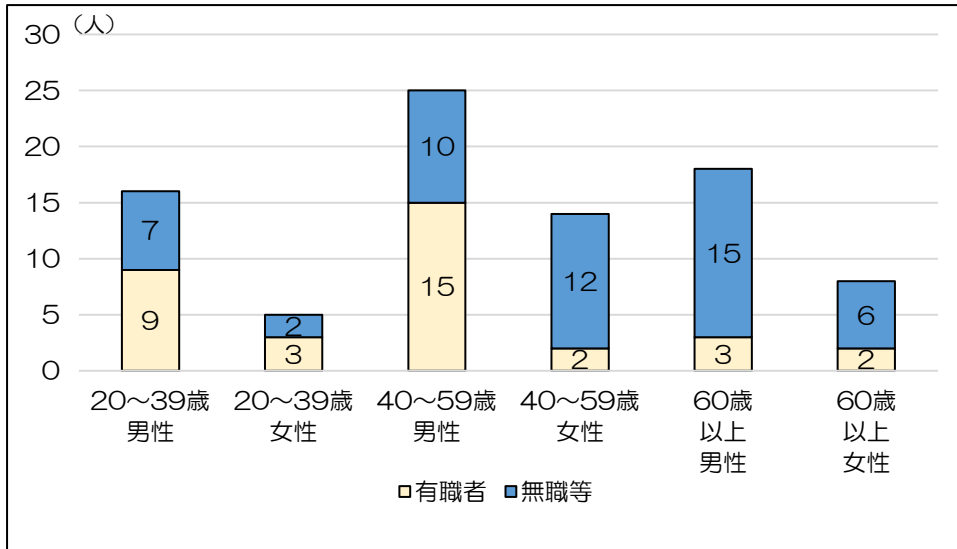
9 20歳以上の自殺者の職業の有無（平成26～30年 合計）
 （自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2019）」）



□20歳以上の自殺者の職業の状況は、約6割が無職等となっている。

10 年齢別自殺者の職業の有無 (平成26~30年 合計)

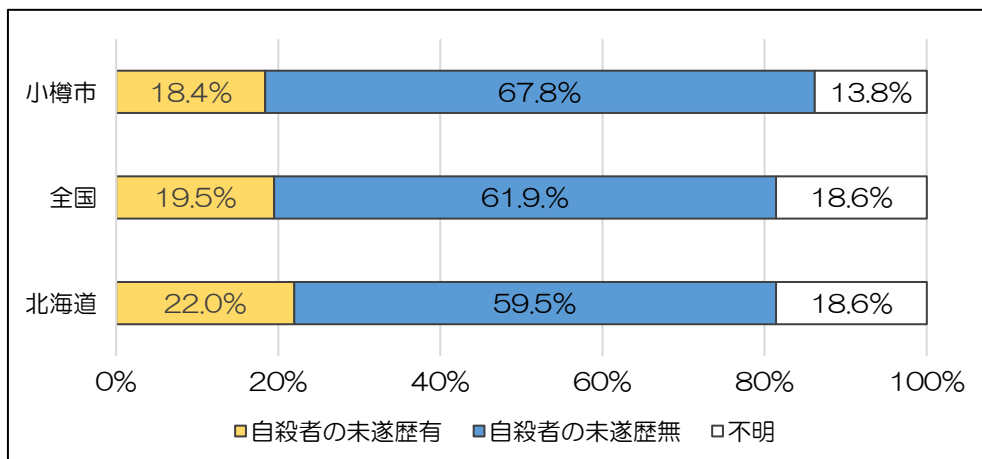
(自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル(2019)」)



□年齢別では、20歳から59歳の男性で有職者が多くなっている。

11 自殺者の未遂歴の有無(全体) (平成26~30年 合計)

(自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル(2019)」)

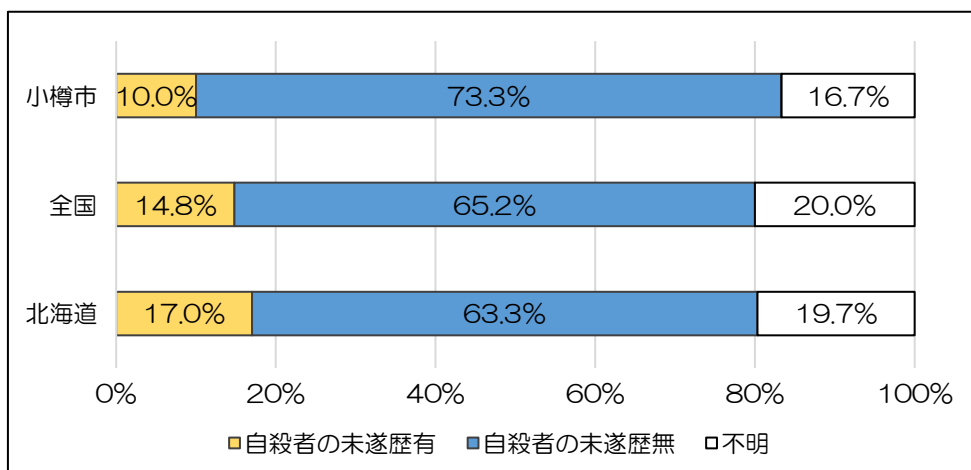


□約2割で未遂歴があり、全国、北海道と同様の状況。

□男女別では、未遂歴の割合は女性が男性より高く、小樽市では約4割となっている。

12 自殺者の未遂歴の有無(男性) (平成26~30年 合計)

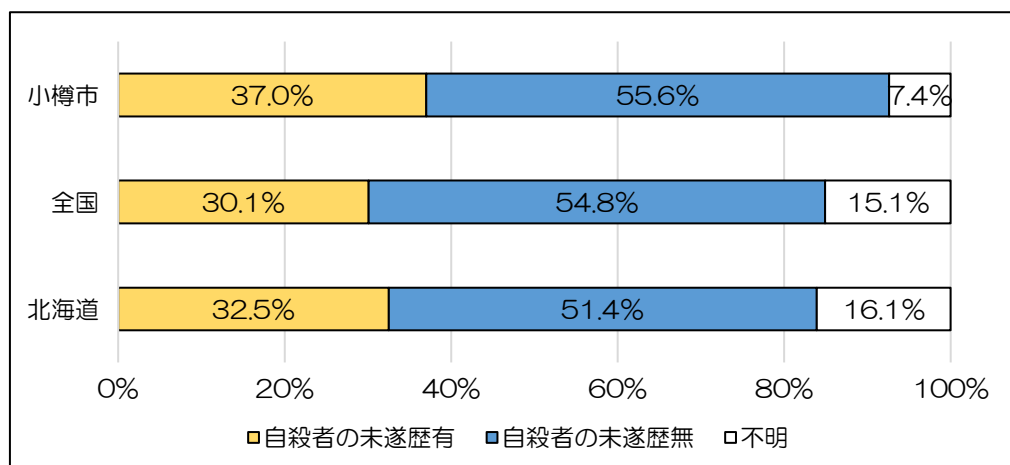
(自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル(2019)」
(全国は厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」)



13 自殺者の未遂歴の有無（女性）（平成26～30年 合計）

（自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2019）」）

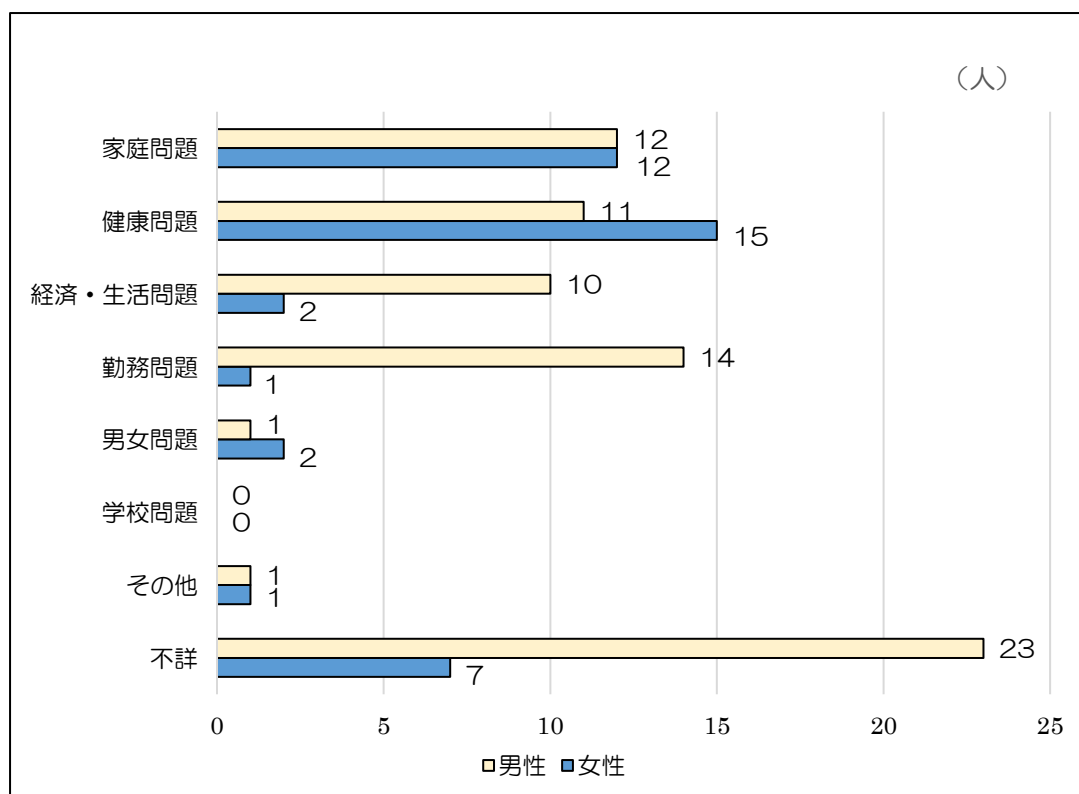
（全国は厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」）



14 原因・動機別件数（平成26～30年 合計）

（厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」）

（遺書等の自殺を裏付ける資料により、明らかに推定できる原因・動機を3つまで計上）



原因・動機について、男性では勤務問題が最も多く、続いて家庭問題、健康問題となっている。女性では健康問題が最も多く、続いて家庭問題となっている。

15 小樽市の自殺の主な特徴・重点的に取り組むべき課題

国は全ての都道府県及び市町村の自殺の実態を分析した「地域実態プロファイル」を作成して、地方公共団体の自殺対策の推進を支援しています。

各自治体は、「地域実態プロファイル」を参考に地域の自殺の実態を把握して、地域の実情に応じた自殺対策を推進することになります。

「地域実態プロファイル」において、国が小樽市の自殺の実態を分析した結果、自殺の主な特徴として下記の表のとおり示されました。

また、今後重点的に取り組むべき課題として下記のとおり推奨されました。

【小樽市の自殺の主な特徴】

平成 24～28 年合計（自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル(2017)」）

| 上位5区分 | 自殺者数 5年計 | 割合 | 自殺率 (10万対) | 背景にある主な自殺の危機経路 |
|--------------------|-------------|-------|---------------|---------------------------------------|
| 1位: 男性 40～59 歳有職同居 | 13 | 12.7% | 25.1 | 配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺 |
| 2位: 男性 60 歳以上無職同居 | 13 | 12.7% | 22.5 | 失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ)+身体疾患→自殺 |
| 3位: 男性 60 歳以上無職独居 | 7 | 6.9% | 52.8 | 失業(退職)+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺 |
| 4位: 男性 20～39 歳有職同居 | 7 | 6.9% | 23.8 | 職場の人間関係/仕事の悩み(ブラック企業)→パワハラ+過労→うつ状態→自殺 |
| 5位: 女性 40～59 歳無職同居 | 7 | 6.9% | 20.3 | 近隣関係の悩み+家族間の不和→うつ病→自殺 |

平成 26～30 年合計（自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル(2019)」）

| 上位5区分 | 自殺者数 5年計 | 割合 | 自殺死亡率* (10万対) | 背景にある主な自殺の危機経路** |
|--------------------|-------------|------|------------------|--|
| 1位: 男性 60 歳以上無職独居 | 8 | 9.2% | 60.3 | 失業(退職)+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺 |
| 2位: 男性 40～59 歳有職同居 | 8 | 9.2% | 15.5 | 配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺 |
| 3位: 男性 40～59 歳有職独居 | 7 | 8.0% | 75.5 | 配置転換(昇進/降格含む)→過労+仕事の失敗→うつ状態+アルコール依存→自殺 |
| 4位: 女性 40～59 歳無職同居 | 7 | 8.0% | 20.3 | 近隣関係の悩み+家族間の不和→うつ病→自殺 |
| 5位: 男性 60 歳以上無職同居 | 7 | 8.0% | 12.1 | 失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ)+身体疾患→自殺 |

【推奨された重点的に取り組む課題】

(平成 24～28 年合計)

| |
|-----------------------|
| 高齢者 生活困窮者 勤務・経営 |
|-----------------------|



(平成 26～30 年合計)

| |
|-----------------------|
| 高齢者 生活困窮者 勤務・経営 |
|-----------------------|

□ 自殺の主な特徴は、平成 24～28 年合計の状況と平成 26～30 年合計の状況はほぼ同様であり、推奨された重点的に取り組む課題に変化は見られませんでした。